



地方都市移住アンケート

地方都市移住、どの規模の都市に移住すべきか？
～今住んでいる人に聞いてみた！

合同会社フィンウェル研究所

代表 野尻哲史

2021年5月3日

アンケート結果のまとめ

移住先はインフラ重視なら100万人以上の都市、住みやすさ重視なら30-100万人都市

- 都市の規模で、退職後の頼りになる収入に大きな違いはない。7割が公的年金を最も頼りになると認識。人口30万人未満都市への移住者は資産収入の依存度が高め。
- 退職後の生活をカバーできる資産額は、都市の規模が小さくなるほど少なくなる。移住の意向はその資産額に影響していない。ただ、3大都市から地方都市に移住した人は「何とかギリギリ生活できる」資産額は、3大都市にいる人よりも少なく済む。
- 資産延命策のトップは都市の規模に関係なく生活費削減と継続就労。生活費削減の柱も都市の規模に関係なく、食費の切り詰め。次は医療費削減。長く働くための工夫も同様に都市の規模にかかわらず、「特に工夫していることがない」が半数近くを占める。
- 年収が高いほど、保有資産が多いほど自分の住んでいる都市を勧める人が多くなる(NPSスコアで分析)。その際の評価ポイントは、食べ物がおいしいこと、趣味の集まりがあること。課題点は公的サービスの使いにくさと退屈な生活。
- 人口100万人以上の都市では医療、公的サービス、交通の便などインフラで評価。物価や住居費が安くない点は課題とみているが、移住者は従前との比較感から生活コストの低さを評価。
- 人口30-100万人都市では物価の安さや食べ物のおいしさなど生活のしやすさを評価。交通の便は相対的に低評価だが、以前から住んでいる人には高評価。課題点は多くない。

アンケート調査概要とレポートの特徴

今回の地方都市移住アンケート調査の分析は、回答した60代4140人を、東京、名古屋、大阪に住む2036人と、地方都市に住む2104人に分け、特に地方都市の良さと課題を、①地方都市の規模別、②長年住んでいる人と移住してきた人に分けて分析した。都市の規模別にアンケートに答えていただいた人の声を分析する。なお、30万人未満の都市に住む人はすべて10年以内に移住してきた人が対象。

居住している都市の規模別、世帯年収、世帯金融資産額

(単位：人、万円)

	回答者数 (人)	男性 (人)	女性 (人)	平均世帯年収 (万円)	平均金融資産 (万円)
全体(60代)	4140	2935	1205	591.0	2740.4
3大都市に居住	2036	1451	585	635.2	3064.0
人口100万人以上の地方都市に居住	1031	718	313	548.3	2563.3
人口30-100万人の都市に居住	933	668	265	550.8	2176.1
人口30万人未満の都市への移住者	140	98	42	530.7	3100.0

注) 回答者はすべて60-69歳。

頼りになる収入の第1位は

- 7割の人が公的年金が退職後の生活の最も頼りになる収入だとしている。次が勤労収入。ただし、人口30万人未満の都市に移住した人は資産収入への依存度が相対的に高い。
- 全体的には、住んでいる都市の規模で、退職後の収入に関する依存度に大きな違いはない。

退職後の生活で頼りになる収入として第1位に挙げた項目の比率

(単位：%)

	公的年金	勤労収入	資産収入	家賃・不動産収入	家族からの仕送り	遺産の相続など	その他
3大都市(2036人)	68.1%	15.9%	8.9%	3.9%	0.2%	1.5%	1.4%
人口100万人以上の都市(1031人)	75.3%	14.1%	7.2%	1.8%	0.0%	0.7%	1.0%
人口30-100万人未満の都市(933人)	74.8%	14.6%	5.0%	3.1%	0.4%	1.1%	1.0%
30万人未満の地方都市への移住者(140人)	68.6%	10.7%	11.4%	2.9%	1.4%	0.7%	4.3%

注)30万人未満都市居住者はすべて3大都市からの移住者。

都市規模別の退職後の生活をカバーできる平均資産額

- 退職後の生活をカバーできるかどうか(金融資産保有者3261人対象)を、居住する都市の規模別に分析。それぞれの平均保有資産額を算出。総じて都市の規模が小さくなるほどそれぞれのカテゴリーの平均保有資産額は少なくなる傾向(30万人都市居住者は移住者のみのため高めに)。
- 人口30-100万人都市で、何とか生活できる水準の資産額は平均で2700万円、中央値のレンジで1501-2000万円の水準。

移住意向別の退職後の生活をカバーできる平均資産額

(単位：万円)

		十分できる	なんとかギリギリできる	全く足りない
合計(3261人)	平均額	6811.8	3266.9	1468.0
	中央値レンジ	5001-7000	2001-5000	501-1000
3大都市(1612人)	平均額	7443.0	3634.8	1584.0
	中央値レンジ	5001-7000	2001-5000	501-1000
人口100万人以上都市(818人)	平均額	6267.6	3113.0	1500.0
	中央値レンジ	5001-7000	1501-2000	501-1000
人口30-100万人都市(718人)	平均額	5455.0	2718.8	1230.3
	中央値レンジ	5001-7000	1501-2000	501-1000
30万人未満都市への移住者 (113人)	平均額	8453.7	3008.3	971.2
	中央値レンジ	1億円以上	2001-5000	1-500

注)30万人未満都市居住者はすべて3大都市からの移住者。

移住意向別の退職後の生活をカバーできる平均保有資産額

- 3大都市居住者とそこから10年以内に移住した地方都市居住者を対象に、平均保有資産額を算出。退職後の生活を十分カバーできると回答した人の平均保有資産額は、移住に関する意向の違いがほとんど出ていない。いずれも3大都市に居住していること、またはしていたことから認識が共通化している。
- 何とかギリギリ生活できると考える水準は、地方都市に移住した人は1000-2000万円ほど少なくなる。

移住意向別の退職後の生活をカバーできる平均資産額

(単位：万円)

		十分できる	なんとかギリギリできる	全く足りない
全体(1825人)	平均額	7472.5	3497.8	1561.0
	中央値レンジ	5001-7000	2001-5000	501-1000
移住を検討中(150人)	平均額	6375.0	4757.7	1974.4
	中央値レンジ	5001-7000	2001-5000	501-1000
移住をあきらめた(193人)	平均額	8042.9	4958.8	1696.7
	中央値レンジ	5001-7000	2001-5000	501-1000
移住は考えていない(1269人)	平均額	7547.2	3316.1	1523.8
	中央値レンジ	7001-10000	2001-5000	501-1000
移住した(213人)	平均額	7683.7	2584.0	1322.2
	中央値レンジ	7001-10000	1501-2000	1-500

注)移住を検討中、移住をあきらめた、移住を考えていない人は、3大都市に現在居住している人のうち、資産を保有している人が対象。移住した人は10年以内に3大都市から移住した人で資産を保有している人

資産の延命策の第1位は生活費削減と継続勤労が双璧

- 資産延命策のトップは生活費の切り詰めと継続就労。居住する都市の規模ではほとんど違いはない。30万人未満都市居住者は移住してきた人が対象のため、移住した人の特徴を反映しているようだ。
- 移住を考えていない人は資産運用の比率が低く、代わりに「特に考えていない」の比率が高い。移住した人は、継続就労の比率が低く、「特に考えていない」傾向が高い。

	生活費を切り詰める	長く働く	資産運用を行う	特に考えていない	その他
3大都市(1612人)	29.5%	33.6%	16.6%	16.6%	3.7%
100万人以上の都市(818人)	35.1%	28.7%	16.5%	15.8%	3.9%
30-100万人都市(718人)	37.6%	28.6%	13.5%	16.4%	3.9%
30万人未満都市への移住者(113人)	31.0%	25.7%	16.8%	25.7%	0.9%

注)30万人未満都市居住者はすべて3大都市からの移住者。資産を保有している人のみ対象

	生活費を切り詰める	長く働く	資産運用を行う	特に考えていない	その他
移住を検討中(150人)	24.7%	38.0%	21.3%	12.0%	4.0%
移住をあきらめた(193人)	31.1%	33.7%	20.2%	11.4%	3.6%
移住は考えていない(1269人)	29.9%	33.0%	15.5%	17.9%	3.7%
移住した(213人)	34.3%	21.1%	19.7%	21.1%	3.8%

生活費削減は食費を切り詰めがトップ

- 生活費削減の柱は居住する都市の規模でほとんど違いはなく、食費の切り詰め。だが、あまり喜ばない施策かも。次は医療費削減。こちらはコントロールしにくいもの。生活費削減は実現性の乏しい対策に映る。
- 30万人未満都市居住者は移住してきた人が対象のため、生活費の削減策はすでに行っていると考えているようだ。

生活費削減に貢献する対策は

	食費を切り詰める	健康増進を図って将来の医療費を抑える	家の住み替え等住居費のダウンサイジングを図る	生活費の安い地方都市などに移住する	その他	生活費削減に貢献する施策はない
3大都市(2036人)	37.6%	25.5%	7.4%	4.3%	1.4%	23.7%
100万人以上の都市(1031人)	41.7%	25.3%	7.3%	1.4%	1.9%	22.4%
30-100万人都市(933人)	39.8%	25.4%	5.4%	2.4%	1.4%	25.7%
30万人未満都市への移住者(140人)	35.7%	17.9%	8.6%	6.4%	0.0%	31.4%

注)30万人未満都市居住者はすべて3大都市からの移住者。

延命策のトップの一つ、継続勤務の工夫の第1位は

- 長く働くための工夫は居住する都市の規模ではほとんど違いはない。
- 特に工夫していることがないという回答が半数近くを占め、今の会社で継続雇用を望む人は2割。新しい仕事を探すのは15%前後。

	スキルアップを 図ってできるだけ 今の会社で継続雇用 を続ける	新しい仕事を探して 収入を確保する	自分で会社を立ち 上げて長く働けるよ うにする	自分は働けないが配 偶者が働きやすくなるよ うに努める	その他	働くことはあ まり考えたくない(特に 工夫してることはない)	働くことより も、ボランティアなどに 時間を使いたい
3大都市(1612人)	20.4%	15.5%	3.5%	4.8%	2.2%	46.0%	7.5%
100万人以上の都市(818人)	20.9%	15.4%	4.5%	4.2%	2.7%	44.0%	8.4%
30-100万人都市(718人)	20.3%	16.0%	2.5%	5.3%	2.1%	47.9%	5.8%
30万人未満都市への移住者 (113人)	20.0%	14.8%	2.9%	5.6%	1.5%	47.8%	7.4%

注)30万人未満都市居住者はすべて3大都市からの移住者。

地方都市、移住してきた人の特徴は

- 地方都市への移住者の特徴は長く住んでいる人と比べ、年収は低めで、資産は多め。
- NPSスコアではそれほど違いがない。

現在住んでいる都市のいいところ—都市の良さにどれだけ影響しているか

		回答者数	保有資産 (万円)	世帯年収 (万円)	NPSスコア
100万人以上都市	10年以上住み続けている	888人	3209.1	555.7	-42.3
	10年以内に移住してきた	143人	3381.1	502.4	-50.3
30-100万人都市	10年以上住み続けている	812人	2810.5	556.0	-49.9
	10年以内に移住してきた	121人	2953.5	515.7	-51.2
30万人未満都市	10年以内に移住してきた	140人	3840.7	530.7	-49.3

注)NPSスコアとは、自分の住んでいる都市を他の人に勧めるかどうかを聞いている。0から10までの11段階で採点し、勧める意向の強い10と9を付けた人の比率から、6以下の推奨意向の低い人の比率を差し引いた数値を示している。

自分の住んでいる都市、それほど勧める人は多くない

□ 年収が高いほど、保有資産が多いほど自分の住んでいる都市を勧める人が多くなる。

年収帯・保有資産帯別のNPSスコア

		回答者数	10-9	NPSスコア	6-0	平均値
全体		4140	9.3%	-49.5	58.8%	6.00
世帯年収	0-200万円	663	7.4%	-62.9	70.3%	5.36
	201-400万円	1032	9.5%	-53.8	63.3%	5.87
	401-600万円	895	8.1%	-47.6	55.7%	6.14
	601-800万円	576	8.4%	-44.7	53.1%	6.22
	801-1000万円	411	9.5%	-48.4	57.9%	6.11
	1001-1500万円	361	13.6%	-35.5	49.1%	6.42
	1501-2000万円	111	17.1%	-29.7	46.8%	6.57
	2000万円以上	91	14.3%	-35.2	49.5%	6.41
保有資産	0円	879	9.9%	-59.2	69.1%	5.56
	1-500万円	715	8.4%	-54.9	63.3%	5.75
	501-1000万円	400	4.8%	-58.1	62.9%	5.81
	1001-1500万円	245	5.8%	-47.2	53.0%	6.15
	1501-2000万円	297	10.5%	-49.7	60.2%	6.10
	2001-5000万円	784	10.5%	-41.9	52.4%	6.29
	5001-7000万円	311	11.6%	-37.1	48.7%	6.47
	7001万円-1億円	233	9.9%	-40.8	50.7%	6.41
1億円以上	276	13.0%	-35.9	48.9%	6.38	

自分の住んでいる都市の良い点と課題 – 交通の便、物価、医療体制、住居費がポイントに

- 現在住んでいる都市を良いと評価するポイントは、交通の便、医療体制、大都市へのアクセス、公的サービス、気候、物価の順。課題は物価、住居費、交通の便が上位。なお、特に課題がないと回答した人がもっとも多かった。

現在住んでいる都市の良い点	回答者数
交通の便が良いこと	2420人
医療体制が意外に充実していること	1595人
大都市にいつでも出かけられて便利	1364人
市役所などの公的サービスが使いやすい	1067人
気候がいいこと	951人
物価が安いこと	919人
食べ物がおいしいこと	835人
海・山など環境がいいこと	713人
家賃・住居費が安いこと	661人
趣味の集まりがたくさんあること	283人
その他	101人
良い点はない	282人

現在住んでいる都市の課題	回答者数
物価がそれほど安くないこと	1146人
家賃・住居費が意外に高いこと	875人
高齢者にとって交通機関が使いにくいこと	745人
自然環境が少なすぎる	489人
医療体制が十分ではないこと	438人
市役所などの公的サービスが使いにくい	311人
長く生活するには退屈なところ	261人
気候が厳して高齢者には住みにくいこと	260人
食べ物が自分たちにあったものが少ない	113人
若者の街という感じが強く、住みにくい	98人
その他	89人
特に課題はない	1384人

注) 良い点、課題ともに複数回答可で集計

自分の住んでいる都市の良い点と課題—その他では災害・治安、生活便利さがポイント

- 選択肢に入れていないなかで多く集まった評価ポイントとしては、良い点でも課題としても災害・治安に対する評価が大きかった。

住んでいる都市の良い点、課題としてその他の項目を選んで具体的に記載された項目トップ5

現在住んでいる都市の良い点	回答者数
災害の少なさ	28人
生活に便利(買い物など)	18人
自然環境が良い	10人
趣味をかなえる多様さ	7人
行政などのインフラ	6人

現在住んでいる都市の課題	回答者数
災害・治安の懸念	26人
税金・社会保険料の高さ	12人
生活の不便さ	11人
坂が多い	10人
交通の便の悪さ	7人

注) 良い点、課題ともに複数回答可で集計

自分の住んでいる都市を勧める人のポイントは食べ物と趣味

- 都市の良さとして指摘したポイントごとにNPSスコアを集計することで、どの点ポイントが都市の評価につながりやすいのかがわかる。食べ物がおいしいこと、趣味の集まりがあることが大きく影響している。

現在住んでいる都市のいいところ—都市の良さにどれだけ影響しているか

	回答者数	10-9	NPSスコア	6-0	平均値
物価が安いこと	919	12.5%	-43.4	55.9%	6.22
食べ物がおいしいこと	835	15.8%	-29.5	45.3%	6.61
家賃・住居費が安いこと	661	10.0%	-47.9	57.9%	6.06
趣味の集まりがたくさんあること	283	17.7%	-23.8	41.5%	6.76
医療体制が意外に充実していること	1595	12.6%	-34.6	47.2%	6.53
市役所などの公的サービスが使いやすい	1067	13.3%	-32.3	45.6%	6.59
交通の便が良いこと	2420	11.0%	-41.8	52.8%	6.35
気候がいいこと	951	12.7%	-34.0	46.7%	6.52
海・山など環境がいいこと	713	13.8%	-35.6	49.4%	6.38
大都市にいつでも出かけられて便利	1364	11.8%	-37.3	49.1%	6.43
その他	101	11.9%	-36.6	48.5%	6.19
良い点はない	282	2.1%	-90.8	92.9%	3.58

注)NPSスコアでは、自分の住んでいる都市を他の人に勧めるかどうかを聞いている。

自分の住んでいる都市に課題があると思う人のポイントは公的サービスの使いにくさと退屈さ

□ 都市の課題として公的サービスの使いにくさと退屈な点を挙げる人のNPSスコアは-60を下回るほど低い。

現在住んでいる都市の課題—都市の良くない点にどれだけ影響しているか

	回答者数	10-9	NPSスコア	6-0	平均値
物価がそれほど安くないこと	1146	7.7%	-53.5	61.2%	5.81
食べ物が自分たちにあったものが少ない	113	7.0%	-55.8	62.8%	5.69
家賃・住居費が意外に高いこと	875	7.8%	-54.1	61.9%	5.80
若者の街という感じが強く、住みにくい	98	8.2%	-43.9	52.1%	5.93
医療体制が十分ではないこと	438	6.9%	-57.7	64.6%	5.65
市役所などの公的サービスが使いにくい	311	7.4%	-60.0	67.4%	5.46
高齢者にとって交通機関が使いにくいこと	745	6.3%	-57.6	63.9%	5.71
気候が厳して高齢者には住みにくいこと	260	8.9%	-55.1	64.0%	5.75
自然環境が少なすぎる	489	7.4%	-52.7	60.1%	5.76
長く生活するには退屈なところ	261	3.9%	-67.3	71.2%	5.14
その他	89	9.0%	-56.1	65.1%	5.08
特に課題はない	1384	12.4%	-42.5	54.9%	6.23

注)NPSスコアでは、自分の住んでいる都市を他の人に勧めるかどうかを聞いている。

どこに住むのがいいのか、今住んでいる人に聞いてみた

- 人口100万人以上の都市の居住者が医療体制、公的サービス、交通の便などインフラで評価。
- 人口30-100万人都市では物価の安さや食べ物がおいしいなど生活のしやすさで評価。

現在住んでいる都市のいいところ

	全体 (4140人)	3大都市 (2036人)	人口100万人 以上の都市 (1031人)	人口30-100 万人の都市 (933人)	30万人未満 地方都市 (140人)
物価が安いこと	22.2%	21.1%	17.7%	27.5%	35.7%
食べ物がおいしいこと	20.2%	13.6%	25.3%	28.3%	24.3%
家賃・住居費が安いこと	16.0%	14.5%	12.2%	19.6%	40.0%
趣味の集まりがたくさんあること	6.8%	8.0%	6.8%	4.6%	5.0%
医療体制が意外に充実していること	38.5%	43.1%	41.0%	28.4%	20.7%
市役所などの公的サービスが使いやすい	25.8%	29.0%	28.1%	17.3%	17.9%
交通の便が良いこと	58.5%	67.0%	64.9%	37.4%	26.4%
気候がいいこと	23.0%	15.1%	26.8%	35.3%	27.1%
海・山など環境がいいこと	17.2%	8.1%	22.9%	27.2%	41.4%
大都市にいつでも出かけられて便利	32.9%	34.3%	37.6%	26.4%	22.1%
その他	2.4%	2.7%	2.1%	1.9%	5.0%
良い点はない	6.8%	5.6%	6.2%	10.3%	6.4%

注)30万人未満都市居住者はすべて3大都市からの移住。網掛けは全体の分布よりも高くなっているところ(特徴が強く出ているところ)

どこに住むのがいいのか、今住んでいる人に聞いてみた

- 人口100万人以上の都市で最近移住してきた人にとっては物価や住居費が安いこと、食べ物がおいしいことを評価。人口30-100万人都市では、交通の便は従来から住み続けている人には評価が高い。

現在住んでいる都市のいいところー住み続けている人と移住してきた人の違い

	100万人以上都市		30-100万人都市		30万人未満都市
	10年以上住み続けている	10年以内に移住してきた	10年以上住み続けている	10年以内に移住してきた	10年以内に移住してきた
物価が安いこと	17.0%	22.4%	27.7%	26.4%	35.7%
食べ物がおいしいこと	24.3%	31.5%	28.2%	28.9%	24.3%
家賃・住居費が安いこと	10.6%	22.4%	17.5%	33.9%	40.0%
趣味の集まりがたくさんあること	6.9%	6.3%	4.3%	6.6%	5.0%
医療体制が意外に充実していること	42.1%	34.3%	29.2%	23.1%	20.7%
市役所などの公的サービスが使いやすいこと	27.9%	29.4%	17.9%	13.2%	17.9%
交通の便が良いこと	65.2%	62.9%	39.2%	25.6%	26.4%
気候がいいこと	27.1%	24.5%	36.0%	30.6%	27.1%
海・山など環境がいいこと	22.4%	25.9%	27.2%	27.3%	41.4%
大都市にいつでも出かけられる便利などところ	37.3%	39.9%	27.3%	19.8%	22.1%
その他	2.0%	2.8%	1.8%	2.5%	5.0%
良い点はない	6.2%	6.3%	10.2%	10.7%	6.4%

注)網掛けは100万人以上都市と30-100万人以上都市の欄では10年以上住み続けている人と10年以内に移住してきた人で比率に5ポイント以上の差が出ているところ。30万人未満都市では30-100万人都市の10年以内に移住してきた人の比率より5ポイント以上高いところ。

どこに住むのがいいのか、今住んでいる人に聞いてみた

- 住んでいる都市の課題として、3大都市では住居費の高さ、自然環境の少なさ、人口100万人以上都市では物価が安くないこと、人口30万人未満都市では医療体制・公的サービス・交通の便の弱さがあげられる。人口30-100万人都市では、特に大きな課題が見つからない点がポイント。ただ、強いて挙げれば交通の便の悪さが課題。

現在住んでいる都市の課題

	全体 (4140人)	3大都市 (2036人)	人口100万人 以上の都市 (1031人)	人口30-100 万人の都市 (933人)	人口30万人 未満都市 (140人)
物価がそれほど安くないこと	27.7%	29.8%	30.9%	19.6%	27.1%
食べ物が自分たちにあったものが少ない	2.7%	3.3%	2.3%	2.3%	0.7%
家賃・住居費が意外に高いこと	21.1%	25.3%	21.9%	13.4%	5.7%
若者の街という感じが強く、住みにくい	2.4%	2.8%	2.3%	1.6%	0.7%
医療体制が十分ではないこと	10.6%	9.4%	9.4%	12.6%	22.1%
市役所などの公的サービスが使いにくい	7.5%	6.5%	7.5%	8.8%	13.6%
高齢者にとって交通機関が使いにくいこと	18.0%	12.3%	13.6%	31.2%	45.7%
気候が厳して高齢者には住みにくいこと	6.3%	4.0%	8.1%	9.4%	5.0%
自然環境が少なすぎる	11.8%	16.5%	7.7%	7.1%	5.7%
長く生活するには退屈なところ	6.3%	5.7%	4.9%	7.6%	16.4%
その他	2.1%	1.9%	2.3%	1.9%	5.7%
特に課題はない	33.4%	33.0%	35.6%	33.0%	27.1%

注)30万人未満都市居住者はすべて3大都市からの移住者。網掛けは全体の分布よりも高く出ている項目

どこに住むのがいいのか、今住んでいる人に聞いてみた

- 住んでいる都市の課題を長く住んでいる人と移住してきた人で比べると、おおむね違いがなかった。ただ30-100万人都市で長く住んでいる人には、物価や住居費があまり安く感じられないようだ。

現在住んでいる都市の課題－住み続けている人と移住してきた人の違い

	100万人以上都市		30-100万人都市		30万人未満都市
	10年以上住み続けている	10年以内に移住してきた	10年以上住み続けている	10年以内に移住してきた	10年以内に移住してきた
物価がそれほど安くないこと	31.4%	28.0%	20.3%	14.9%	27.1%
食べ物が自分たちにあったものが少ない	2.5%	1.4%	2.5%	0.8%	0.7%
家賃・住居費が意外に高いこと	21.4%	25.2%	13.9%	9.9%	5.7%
若者の街という感じが強く、住みにくい	2.1%	3.5%	1.7%	0.8%	0.7%
医療体制が十分ではないこと	9.6%	8.4%	12.6%	13.2%	22.1%
市役所などの公的サービスが使いにくい	7.2%	9.1%	8.6%	9.9%	13.6%
高齢者にとって交通機関が使いにくいこと	13.2%	16.1%	31.4%	29.8%	45.7%
気候が厳して高齢者には住みにくいこと	8.2%	7.7%	9.9%	6.6%	5.0%
自然環境が少なすぎる	7.5%	8.4%	7.6%	3.3%	5.7%
長く生活するには退屈なところ	5.0%	4.9%	7.6%	7.4%	16.4%
その他	2.3%	2.8%	2.0%	1.7%	5.7%
特に課題はない	35.6%	35.7%	33.0%	33.1%	27.1%

注)網掛けは100万人以上都市と30-100万人以上都市の欄では10年以上住み続けている人と10年以内に移住してきた人で比率に5ポイント以上の差が出ているところ。30万人未満都市では30-100万人都市の10年以内に移住してきた人の比率より5ポイント以上高いところ。

重要事項

- 当該資料は信頼できる情報、データをもとに合同会社フィンウェル研究所が作成しておりますが、正確性・完全性に関して当社が保証するものではありません。
- 当該資料に記載された情報、意見は作成時点のものであり、その後の情勢の変化などによって予告なく変更することがあります。
- いずれの情報、データ、意見は将来の傾向などを保証もしくは示唆するものではありません。
- 当該資料に係る一切の権利は引用部分を除いて弊社に所属し、いかなる目的であれ当該資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断りします。

合同会社フィンウェル研究所